

多様な働き方推進

当社は、仕事と子育ての両立支援に積極的に取り組んでいます。

これまでに、子育てサポート企業として厚生労働大臣から「くるみん認定」を2度取得。さらに2022年7月には、不妊治療と仕事の両立を支援する「くるみんプラス認定」を北海道で初めて取得しました。

また、男性社員の育児参加も積極的に支援しています。子育て中の男性社員との個別面談を通して育児休業への不安を解消し、キャリア形成をサポートすることで、男性の育児休業取得率は高い水準を実現しています。



女性活躍推進

当社は、新卒採用における女性の採用を積極的に行っており、30代以下に占める女性割合は約30%まで上昇しました。

また、これまで女性が少なかった技術系職場(石狩LNG基地や都市ガス配管工事の現場担当)にも女性を積極的に配置し、職域の拡大を図っています。

加えて、女性のキャリア形成を支援するための教育・研修の充実など、スキルアップに向けた様々な取り組みを進めており、女性の活躍を更に促進してまいります。



「従業員持株会RS制度」の導入

本年6月、当社グループの従業員に対して、従業員持株会を通じて譲渡制限付株式を割当てる「従業員持株会RS*制度」を導入いたしました。

本制度は、従業員一人ひとりが中長期的な業績向上に向けて主体的に取り組むことを促すとともに、会社の成長を自らの成果として実感することで、貢献意欲の向上や従業員の財産形成の一助とすること、さらには、従業員による株式保有が拡大することで、安定的な株主基盤の形成に寄与し、当社株式の中長期的な流動性の向上に繋げることも目的としています。

*譲渡制限付株式



北ガス硬式野球部
REPORT

4年ぶり2度目の日本選手権出場!

北ガス硬式野球部は、2025年10月28日(火)から京セラドーム大阪で開催された「第50回社会人野球日本選手権大会」に4年ぶり2度目の出場を果たしました。

10月29日(水)に行われた1回戦は、前回大会4強の中国地区代表JFE西日本(広島)と対戦し、接戦の末、2対3で惜しくも初戦敗退となりました。

この経験と皆さまからの応援を力に変え、次なる目標に向けて一層邁進してまいります。これからも北ガス硬式野球部へのご支援をお願いいたします。



株主の皆さんには、日頃より当社グループの事業運営に格別のご支援を賜り、厚く御礼申しあげます。

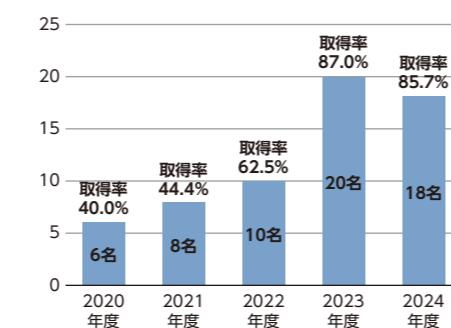
北ガスグループ経営計画「Challenge 2030」は、フェーズ2(2025~2027年)の初年度を迎ました。フェーズ1の取り組みを進化させるとともに、引き続き「①総合エネルギーサービス事業の進化による分散型社会の形成」、「②カーボンニュートラルへの挑戦」「③デジタル技術の活用による事業構造変革」の3つの主要施策を中心に取り組んでまいります。

少子高齢化による社会構造の変化、国際情勢の変化による社会・経済への影響など、事業環境が大きく変化する中、「安全・安心・安定供給」を第一に、地域とともに成長する企業グループを目指してまいります。

株主の皆さんにおかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申しあげます。

代表取締役社長 川村 智郷

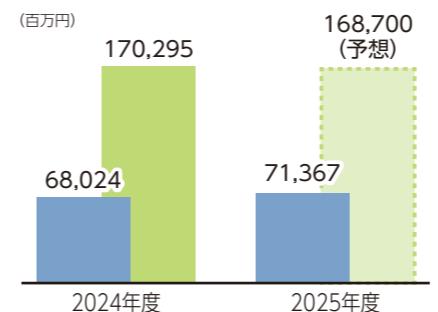
■男性の育児休業取得状況



中間連結決算ハイライト

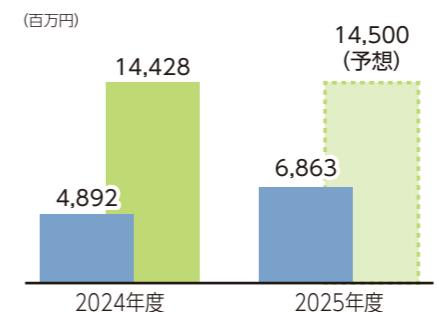
● 売上高

71,367 百万円
前年同期比 4.9% 増 ↑



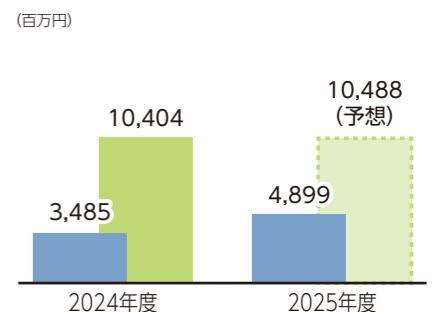
● 経常利益

6,863 百万円
前年同期比 40.3% 増 ↑



● 親会社株主に帰属する純利益

4,899 百万円
前年同期比 40.6% 増 ↑



上半期業績のポイント

連結決算は2期ぶりの増収・増益、営業利益・経常利益・純利益は過去最高となりました。

【売上高】ガス・電力の原料費(燃料費)調整制度における販売単価が低下したものの、ガス・LNG・電力販売量の増加等により、前年同期に比べ4.9%の増収となりました。

【経常利益】ガスマートメーターの本格導入やデジタル基盤の強化に伴う経費が増加したものの、ガス・LNG・電力販売量の増加等により、前年同期に比べ40.3%の増益となりました。

上半期決算詳細、トピックス等
<https://www.hokkaido-gas.co.jp/ir/irinfo/>



配当方針の変更・中間配当について

この度、10月31日開催の取締役会において、配当方針を変更し、目標指標を「配当性向」から「累進配当」を基本とした「DOE」による目標値に変更するとともに、中間配当の実施について決定いたしました。

- 配当方針 -

当社は、地域社会のインフラを支える企業であり、事業の健全な維持・成長のためには、安全かつ安定したエネルギー供給の維持・拡大に向けた長期的かつ大規模な設備投資や、需要開発・技術開発への投資が必要です。

また、地域の社会や経済との密接な関わりの中で、お客さまへの還元や地域社会への貢献が求められます。

加えて、再生可能エネルギーの導入拡大やDX推進などへの投資や人材の確保も重要です。

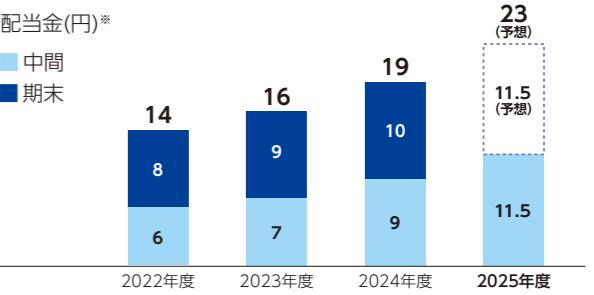
こうしたことを踏まえ、配当につきましては、財務健全性の維持を図りながら、継続的かつ安定的に配当を行うことを念頭に、累進配当を基本としながらDOE(連結株主資本配当率)2.5%を目標としてまいります。

中間配当につきましては、上記の新たな配当方針のもと、中間決算の状況や期末業績の見通し等を踏まえ、前年同期に比べ、2円50銭増配の1株あたり11円50銭とし、期末配当予想についても、1円50銭増配の1株あたり11円50銭といたしました。

これにより、年間配当金は前期に比べ、4円増配の23円となる見込みです。

配当金(円)*

■ 中間
■ 期末



カーボン ニュートラル への挑戦

LNG供給事業の拡大

石狩LNG基地を起点とし 北海道全域へLNGを供給

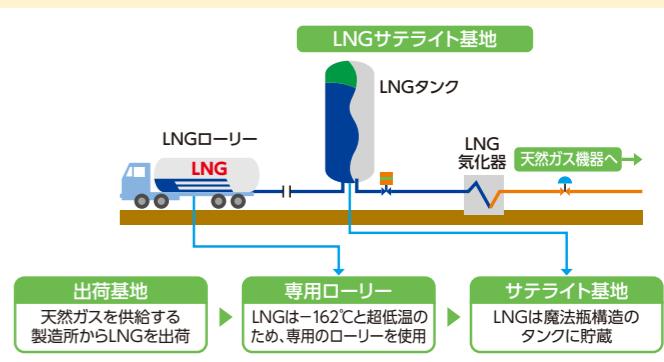
全37件(2025年12月1日現在)



当社は、持続的な成長と地域社会の低・脱炭素化へ貢献するため、
LNG供給事業を多角的に展開しています。
都市ガス導管網が未整備な地域へLNGを直接輸送する
「LNGサテライト供給」を拡大し、お客さまのエネルギー転換を支援しています。
近年は新たに「船舶向けLNGバンкиリング」事業へも参入し、
海運業界の環境負荷低減に貢献しています。
これらの事業を通じ、北海道における天然ガスへのエネルギー転換を牽引し、
社会課題の解決に貢献しています。

LNGサテライト供給とは

都市ガス導管網が未整備な地域へ、LNGを液体のままタンクローリーで輸送し、お客さまの施設内にあるLNGタンクや気化器等で貯蔵・気化させて天然ガスを利用する仕組みです。



10万台達成! LNGローリー車 累計出荷10万台達成

2025年9月、当社グループのLNGローリー輸送業務において、石狩LNG基地からの出荷台数が累計10万台を達成いたしました。

2012年の初出荷以来、輸送量は着実に増加し、現在では5社の輸送パートナーとともに、北海道各地のお客さまへLNGを安全かつ確実にお届けする「動くパイプライン」としての役割を担っています。



船舶向けLNGバンкиリングとは

船舶向けLNGバンкиリングとは、船にLNGを燃料として供給することです。国際海事機関(IMO)によるSOx^{*1}・NOx^{*2}といった大気汚染物質やCO₂などの温室効果ガス排出規制が厳しくなる中、世界的にも導入が増加しています。

*1 硫黄酸化物 *2 窒素酸化物



北海道初! フェリー向けLNGバンкиリング事業を開始

2025年5月、当社初の船舶向けLNGバンкиリング事業として株式会社商船三井のLNG燃料フェリー「さんふらわあかむい」にLNG燃料の供給を開始しました。LNGローリー車からフェリーへ直接LNGを供給する「Truck to Ship方式」を採用し、大規模な設備を必要とせず、効率的な燃料供給を実現しました。

